

プレスリリース

2025年10月29日

# 結核や顧みられない熱帯病 (NTDs) の診断薬やワクチン開発に 約17億円を投資 富士フイルム、長崎大学、栄研化学などへ助成

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金(以下、GHIT Fund)は、結核、顧みられない熱帯病(NTDs)、マラリアに対する診断薬およびワクチンの製品開発 4 件に、合計約 17 億円の投資を決定しました  $^1$ 。

### 結核の迅速診断技術の実用化に向け、3.9億円を投資

結核は世界で毎年 1,000 万人以上が罹患し、120 万人以上が命を落とす深刻な感染症です <sup>2</sup>。 特に医療資源の乏しい地域では、毎年 300 万人以上が結核の診断を受けることができず、取り残されています <sup>3</sup>。その背景には、喀痰の採取が困難な重症患者や小児などがいること、初期診療の現場で使える適切な検査の不足していることが挙げられます。この課題を解決するために GHIT Fund は、国際的なパートナーシップで結核の診断薬を開発するプロジェクトに対して、新たに 3.9 億円の投資を決定しました。本プロジェクトには、スイスに拠点を構える UNOPS<sup>4</sup>(国連プロジェクトサービス機関)主催であるストップ結核パートナーシップ、富士フイルム株式会社、リバプール大学熱帯医学校、さらにカメルーン、ナイジェリア、ドイツの研究機関が参画しています。今回の投資は GHIT Fund が 2016 年から 2023 年までに合計約 6 億円を投資したプロジェクトの継続であり、尿を用いた結核診断用高感度迅速診断キットの実用化を目指すものです。

本プロジェクトでは、富士フイルムが開発中の尿中 LAM 抗原を検出する「FUJIFILM SILVAMP TB LAM II」および尿濃縮装置(UCD)の性能を評価し、喀痰を必要としない革新的な診断法の実現可能性を検証します。本技術は、HIV の感染に関わらず、重症患者や小児を含む幅広い患者層での診断精度向上が期待され、診断格差の是正や感染拡大の抑制といったグローバルヘルス課題に対し貢献することが期待されます。

#### リーシュマニア症ワクチンの臨床開発に 6.8 億円の投資

リーシュマニア症は、サシチョウバエを媒介として広がる寄生虫疾患で、世界保健機関 (WHO) が指定する顧みられない熱帯病 (NTDs) の一つです 5。GHIT Fund は、米国オハイオ州立大学および長崎大学が共同で進めるワクチンの臨床開発に 6.8 億円を投資します。本プロジェクトでは、流行地域であるブラジルとケニアにおいて健康な成人を対象に、開発中のワクチンの安全性および免疫原性を評価します。さらに、2025 年 7 月 25 日には米国食品医薬品局 (FDA) により第 I 相臨床試験を開始するための申請である Investigational New Drug Application (IND)が承認されており、この進展はリーシュマニア症克服に向けた大きな一歩であり、今後の製品開発や早期実用化を加速させることが期待されます。

# GHIT Fund Global Health Innovative Technology Fund

その他に、以下の2つの研究開発プロジェクトに合計約6.6億円の投資を決定しました。

- (1) NTDs を対象とした医薬品、診断薬を開発する非営利団体である米国の Drugs & Diagnostics for Tropical Diseases (DDTD)、株式会社医学生物学研究所などのパートナーによる糞線虫症の新しい迅速診断検査の製品開発プロジェクト
- (2) 愛媛大学、長崎大学熱帯医学研究所、マレーシアサバ大学によるマラリア診断薬の標的研究プロジェクト

各プロジェクトの概要や開発段階など、詳しくは別紙1をご覧ください。 今回助成する 4 つのプロジェクトには計 11 か国におよぶパートナーが参画しています。 GHIT Fund は累積で 190 機関を超える研究開発パートナーと協業し、そのうち海外の機関は 130 を超え、日本と海外の製薬企業や大学、研究機関をつなぐ橋渡しの役割を担っています。

2025 年 9 月 30 日時点で、42 件のプロジェクトに投資しており、内訳として、17 件の標的・探索研究、14 件の非臨床試験 11 件の臨床試験 6 となります。GHIT Fund のこれまでの累積投資金額は約 410 億円となります(別紙 2)。

#### 注記

- <sup>1</sup>これらの案件は、2023年 6月~2025年 7月にかけて実施した公募 RFP2023-002、RFP2024-001、RFP2025-001(標的研究プログラム、製品開発プログラム)の中から選定され、承認されたものです。
- <sup>2</sup> WHO(世界保健機関) <u>https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/tuberculosis</u> 参照
- <sup>3</sup> Stop TB Partnership <a href="https://www.stoptb.org/missing-tb-millions">https://www.stoptb.org/missing-tb-millions</a> 参照
- $^4$  UNOPS: United Nations Office for Project Services の略
- <sup>5</sup> WHO(世界保健機関) <u>https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/leishmaniasis</u> 参照
- 6薬事申請の段階にある案件を含みます。診断薬開発において、途上国における 患者サンプルを使用した臨床的妥当性の評価を行う段階に入った案件については、表現の便宜上、臨床試験として扱う。

#### 【グローバルヘルス技術振興基金(GHIT Fund)について】

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金 (GHIT Fund) は、日本政府(外務省、厚生労働省)、製薬企業などの民間企業、ゲイツ財団、ウェルカム、国連開発計画が参画する国際的な官民パートナーシップです。世界の最貧困層の健康を脅かすマラリア、結核、顧みられない熱帯病(NTDs)などの感染症と闘うための新薬開発への投資を行っています。治療薬、ワクチン、診断薬を開発するために、GHIT Fund は日本の製薬企業、大学、研究機関の製品開発への参画と、海外の機関との連携を促進しています。詳しくは、https://www.ghitfund.org/jpをご覧ください。



# 別紙 1. 今回の投資案件概要

# ID: G2023-212

プロジェクト タイトル	FUJIFILM SILVAMP TB LAM II及び尿濃縮デバイス(UCD)の診断精度の多施設試験
製品開発パートナー	1. ストップ結核パートナーシップ(スイス) 2. 富士フイルム株式会社(日本) 3. リバプール大学熱帯医学校(LSTM)(英国) 4. Center for Health Promotion and Research (CHPR)(カメルーン) 5. Friends for International TB Relief (FIT) (ドイツ) 6. Zankli Research Centre, Bingham University Nigeria (ZRC) (ナイジェリア)
疾患	結核
製品	診断薬
開発段階	製品バリデーション
投資額	¥390,000,000
ステータス	継続
概要	【プロジェクトの目的】 このプロジェクトの主な目的は、富士フイルムの SILVAMP TB LAM II と感度 のさらなる向上を目指す、開発中の尿濃縮装置(UCD)の性能に関し、WHO の推奨取得に向けたエビデンスを提供することであり、運用化、コスト計算、実現可能性調査を含む。  【プロジェクト・デザイン】 カメルーン、ナイジェリア、ベトナムの複数の施設で、SILVAMP TB LAM II と尿濃縮装置(UCD)の性能を前向きに評価する。PLHIV、HIV 陰性の成人、および HIV の重複感染に関係なく小児における検査成績を評価する。また、SILVAMP TB LAM II の運用、費用、実現可能性についても検討する。
プロジェクト詳細	https://www.ghitfund.org/investment/portfoliodetail/detail/246/jp



Global Health Innovative Technology Fund

# ID: G2024-101

プロジェクト タイトル	cGMP グレード LmCen-/-ワクチンの第 I 相臨床試験における安全性および免疫原性の評価
製品開発 パートナー	<ol> <li>オハイオ州立大学(米国)</li> <li>長崎大学(日本)</li> </ol>
疾患	リーシュマニア症
製品	ワクチン
開発段階	第I相臨床試験
投資額	¥681,063,113
ステータス	継続
概要	【プロジェクトの目的】 1.ブラジル(新世界)における健常人を対象とした第I相臨床試験により、安全性と免疫原性を評価する。 2.ケニア(旧世界)における健常人を対象とした第I相臨床試験により、安全性と免疫原性を評価する。 【プロジェクト・デザイン】 本研究は先行プロジェクトの成果を発展させるものである。これまでに、(1)前臨床動物モデルでの安全性・有効性の検証、(2)マスターセルバンクおよびワーキングセルバンクの構築、(3)cGMP 製造体制の確立、(4)GLP ワクチンを用いた非臨床(前臨床)毒性試験、(5)IND 申請に必要な資料を準備・整備した。本プロジェクトでは、栄養不良や下痢、マラリア、シャーガス病、寄生蠕虫感染など共感染が多い流行地域(ブラジル、ケニア)での安全性と免疫応答を評価する。
プロジェクト詳細	https://www.ghitfund.org/investment/portfoliodetail/detail/247/jp

# GHIT Fund

Global Health Innovative Technology Fund

# ID: G2025-101

ID: G2025-101	
プロジェクト タイトル	糞線虫ラピッドテスト・プラス(SsRT+):新しい簡便化された迅速診断検 査による WHO の糞線虫症制御プログラムの支援
製品開発パートナー	1. Drugs & Diagnostics for Tropical Diseases (DDTD) (米国) 2. 株式会社医学生物学研究所(日本) 3. IRCCS Sacro Cuore Don Calabria Hospital(イタリア) 4. QIMR Berghofer Medical Research Institute(オーストラリア) 5. Fundacion Mundo Sano(スペイン) 6. Big Eye Diagnostics, Inc. (BEDx) (米国)
疾患	糞線虫症 (土壌伝播寄生虫症)
製品	診断薬
開発段階	プロダクトデザイン
投資額	¥566,596,199
ステータス	新規
概要	【プロジェクトの目的】 このプロジェクトの包括的な目標は、S. stercoralis 感染を検出するための、使いやすく低コストの POC 検査を提供することです。S. stercoralis Rapid Test Plus (SsRT+) と呼ばれるこの新しい検査は、SsRapid の改良版となります。SsRapid は、当プロジェクトの顧問である R. Noordin 教授によって開発・検証されており、一連の実験室およびフィールド研究において、感度 80~97%、特異度 90~100%であることが示されています。第一代目の SsRT+プロトタイプはすでに開発されており、SsRapid と同等かそれ以上の診断性能を示しました。本プロジェクトでは、SsRT+を糞線虫(S. stercoralis)診断のための新しい TPP の主要基準をすべて満たすように完全に最適化します。 【プロジェクト・デザイン】目標 1:この最初の活動では、最適な使用場面を見直し、WHO の糞線虫症対策プログラムに整合するために、SsRT+を用いて取得するべき主要な実験データを定義することを目指します。また、オーストラリアとアルゼンチンにおけるフィールド評価の研究計画を最終化し、事業化/商業化計画を策定します。 目標 2:高品質な抗原と陽性コントロール抗体へのアクセスは、ISO-13485:2016 基準の下での効率的な検査開発、最適化、製造の鍵となります。GHIT Fund の他のすべてのプロジェクトと同様に、MBL は高品質な組み換え型 NIE 抗原および IgG4 抗 NIE 抗体の生産を任されます。 目標 3:G2025-101 開始時に利用可能な SsRT+プロトタイプは、感度、特異性、結果までの時間、結果の安定性、再現性 (CV 値)、およびコストを含む、糞線虫(S. stercoralis)診断のための TPP に記載されたすべての主要基準に従って完全に最適化されます。SsRT+の前身である SsRapid は既に TPP の基準の大部分を満たしているため、これは非常に現実的な目標であると考え



目標 4: SsRapid を多数の実験室およびフィールド研究で開発・検証してきた

断精度研究を以前に実施した IRCCS Sacro Cuore Don Calabria Hospital の D. Buonfrate 教授は、SsRT+の診断性能を独立して評価し、TPP に準拠していることと、SsRapid に劣らないことを実証します。

マレーシア国民大学(UKM)の R. Noordin 教授と、SsRapid を含む詳細な診

目標 5: TPP 準拠の性能が実験室で検証されたら、SsRT+はオーストラリアで QIMR Berghofer の D. Gray 教授のグループ、アルゼンチンで Mundo Sano の A. Krolewiecki 教授のグループによって、それぞれ実施される 2 つのフィールドスタディで評価されます。

目標 6: DDTD は、予測される需要に応じた ISO-13485:2016 準拠の自動製造プロセスを開発します。ここでは、GHIT Fund プロジェクト G2023-111 におけるオンコセルカ症迅速検査の導入で成功したプロセスにモデルに基づいて進められ、その後、複数のパイロットロットの製造とロット間の一貫性の定量化を通じて BEDx によって検証します。

プロジェクト詳細 https://www.ghitfund.org/investment/portfoliodetail/detail/248/jp



Global Health Innovative Technology Fund

# ID: T2024-276

ID: T2024-276	
プロジェクト タイトル	ゼロから設計する人工タンパク質を使った高感度で信頼性の高いマラリア迅 速検査開発
製品開発パートナー	<ol> <li>1. 愛媛大学(日本)</li> <li>2. 長崎大学熱帯医学研究所(日本)</li> <li>3. マレーシアサバ大学(マレーシア)</li> </ol>
疾患	マラリア
製品	診断薬
開発段階	コンセプト開発
投資額	¥99,670,808
ステータス	新規
概要	【プロジェクトの目的】 現在使われている LFA によるマラリア迅速検査は抗体に依存していますが、感度が十分でないことや種類を正確に見分けにくいことが課題です。本研究では、抗体の代わりに新しい人工タンパク質を利用した検査用試薬を開発し、主要な病原体である Pfだけでなく、その他のマラリア原虫や新興の Pkも高感度に検出できる診断法を目指します。開発する試薬は既存の検査キットにそのまま組み込めるため、COVID-19の簡易検査のように世界規模で普及させることが可能です。さらに臨床検体を用いた検証を行い、世界保健機関(WHO)が重要とする「高感度」「安定性」「低コスト」「変異に強い」という条件を満たす技術を実現します。これによりマラリア対策に大きな進展をもたらすだけでなく、将来の新興感染症にも対応可能な診断プラットフォームを築くことを目指しています。 【プロジェクト・デザイン】 本研究では、これまでマラリア用 LFA に使われてきた抗体の代わりに、コンピュータで設計した「モノボディ」と呼ばれる新しい分子を利用します。抗体は結合力に限界があり感度を上げにくいのですが、モノボディを複数組み合わせて二重に結合させることで、まるで両手でしっかりつかむように結合を強め、従来よりもはるかに強固な結合を実現できます。さらに、コンピュータ設計により抗原の異なる部位を狙えるため、この工夫が可能になります。我々はこうして作った二重モノボディの結合力や他の分子への影響を調べ、検査に必要な性質を確認します。最終的にこれらを試作検査キットに組み込み、その性能を確かめることで、より高感度で信頼性の高いマラリア診断につなげます。
プロジーカし stym	
ノロンエクト詳細	https://www.ghitfund.org/investment/portfoliodetail/detail/249/jp

# GHIT Fund

Global Health Innovative Technology Fund

別紙 2. これまでの投資実績(2025年9月30日時点)

#### 1. 累積投資

累積投資額 約410億円

累積投資件数 141件(内訳:進行案件42件、終了案件99件)

詳しくは、GHIT Fundのウェブサイトを御覧ください。

投資実績: https://www.ghitfund.org/investment/overview/jp

ポートフォリオ: <a href="https://www.ghitfund.org/investment/portfolio/jp">https://www.ghitfund.org/investment/portfolio/jp</a> 開発状況: <a href="https://www.ghitfund.org/investment/advancingportfolio/jp">https://www.ghitfund.org/investment/advancingportfolio/jp</a> 臨床試験: <a href="https://www.ghitfund.org/investment/clinicalcandidates/jp">https://www.ghitfund.org/investment/clinicalcandidates/jp</a>

#### 【注意事項】

1. GHIT Fundでは、製品開発案件に対して「助成」することを、「投資」と表現しています。製品開発に対して資金提供だけを行うのではなく、積極的に進捗管理に関与し、成果が見込めないプロジェクトについては直ちに中止するなど、厳格なポートフォリオ・マネジメントを行っています。一般的に用いられる、金銭的利益を目的とした「投資」とは意味合いが異なります。

- 2. 「継続投資」とは、過去に GHIT Fund から投資を受けている製品開発パートナーが、GHIT Fund から新たな投資を受ける際に用いることを指します。
- 3. 本プレスリリースの別紙1に記載した各プロジェクト概要は、製品開発パートナーが GHIT Fund に提出した資料から該当箇所を抜粋したものです。詳しくは、GHIT Fund のウェブサイトを御覧ください。